

第4回 北勢線の魅力を探る

来い（鯉）と呼ぶ猪名部の春 —桑員まちかど博物館をたずねて—

開催日 2005年3月21日（月・振替休日）

参加者 113名（内子ども1名）

協力者 山口一成さん、石垣猪名部神社宮司

南大社自治会、北大社自治会、東員町教育委員会

鳥取山田神社～山田の毘沙門堂～浄源寺、円光寺

六把野駅は無人駅なのに今日は2人の駅員さんが出迎えてくれる。まずは鳥取山田神社へ。ここで東員町の郷土史に詳しい山口一成さんのお話を聞く。東員町には古代からの式内社が多いが、この神社も式内社の1つである。拝殿の屋根には中央に主神の角凝魂命の紋があり、左に春日大明神、右に稲荷大明神の紋が付いている。境内に毘沙門堂がある。



毘沙門堂内

この毘沙門堂の建物は昭和58年（1983）の建設で新しいが、祀られている毘沙門天は延暦年間（約1200年前）の作と伝えられ、真言宗員弁寺の別院法明寺に安置されていた。天正元年（1573）の織田信長の侵攻により法明寺は焼失したが、毘沙門天は村民の手で救出されたと言われる。次に浄源寺、円光寺へ行く。どちらも員弁山を名乗る。浄土真宗の西本願寺派と東本願寺派の寺である。円光寺の境内には員弁寺遺物といわれる礎石がある。この辺りは遙かな古代を偲ばせる、ロマン溢れる里だ。

東員町郷土資料館～鯉の泳ぐ遊歩路

員弁川に架かる赤い水神橋を渡り、養父川のわき道を通って東員町郷土資料館に向う。この郷土資料館は三和小学校（旧大長尋常高等小学校）の旧校舎を利用して昭和51年（1976）に設立された施設である。収蔵品は日常生活用品から蚕や綿の用具、農機具などで、この地方のくらしの様子を知ることが出来る。普段は町の教育委員会に予約申し込みで見学できることになっている。



東員町郷土資料館の内部

郷土資料館の南側には、東員町が生んだ歌舞伎界の名優松本幸四郎を後世に伝えようと町制施行30周年を記念して作られた公園がある。公園内には、幸四郎丈の当たり役「弁慶」を記念した「弁慶」のわらべ像や、歌舞伎の場面をモチーフにしたモザイク壁画がある。

南大社を流れる養父川の1キロほどに及ぶ水路は地元の人たちの、環境保護と観光目的のために整備され、何千匹と鯉が放流されたが、鳥にとられたりして、今では3～4千匹の成魚になっている。大きな鯉、赤と白できれいな模様を持った鯉、いろいろな鯉が気持ちよさそうに泳いでいる。両岸には桜が植えられ、間もなく満開になるだろう。その時には、川面に散った桜の花びらを、鯉たちも愛でるのだろう。



鯉が泳いでいる南大社の水路

猪名部神社～桑員まちかど博物館「珠鳴庵」

大社橋で員弁川を再び渡り、北大社の猪名部神社に着いた。石垣宮司から神社の由緒について説明を聞いた。当社の起源は詳らかではないが、古代豪族猪名部氏の氏神として古くから崇拜され、初めて記録にあらわれるのは貞観元年(859)5月26日(『日本三代実録』)で、『延喜式』にも記載されている。祭神は猪名部氏の祖神である伊香我色男命をはじめ、須佐之男命・天照大神・春澄善繩卿など14柱を祀っている。春澄善繩(797～870)は猪

名部豊雄の子で、員弁郡に生まれた。その後『続日本後紀』の編纂にあたったことは特に有名である。境内には古墳が幾つかある。

本殿の北西に位置する集会所は稲部小学校の前身である北社学校の跡地である。明治12年(1879)に木村誓太郎によって校舎が建てられ、明治22年まで10年間使用された。現在は集会所脇に石碑が建てられている。道を挟んだ隣に旧木村邸跡地に建設された幽静館があり、中には木村誓太郎ゆかりの品が展示してある。神社の境内や幽静館の庭で昼食をした。



幽静館

午後は自由行動としたが、半分くらいの人が珠鳴庵へ訪れた。午前中に案内して頂いた山口先生の自宅である。珠算の先生ではないが、地元の算術家一色正芳(1747-1821)を調べる中で、珠算の歴史などを調べ、古い算盤や文献資料を収集して、まちかど博物館として一般に公開された。正芳は農閑期を利用して百日間でマスターできる速算術を農民たちに教えた。そのため、伊勢地方一体に正芳流百日算が広まった。南大社の共同墓地の一角に正芳の墓もある。



一色正芳の墓